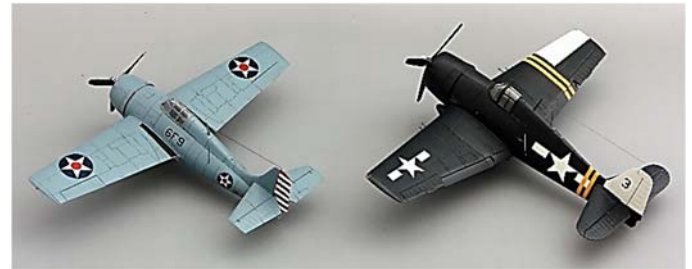


## ～グラマン F6F-5 ヘルキャット



[太平洋戦争中期まで主力だった F4F と ↓]



本機、F6F ヘルキャットは、1942年に初飛行した、太平洋戦争後期の米国海軍主力戦闘機で

す。どこか愛嬌があり、のんびりしたグラマンの前作、F4Fに比べて一回り大きくなった機体は、太平洋戦争に突入し、米国が本気で戦争を勝ちに来た、という感じのするデザインです。同時期に、未だライバルとして日本海軍で使われていた零戦と比べると、そのアウトラインは直線的でディテールが乏しく、味気の無いものに見えますが、逆に単純な輪郭線で構成される機体からは、零戦に倍する2000馬力級エンジンを搭載し、力任せにねじ伏せる設計思想が感じられます。日本海軍のパイロットは、きっとその文化の違いに圧倒されたのではないかと想像します。12000機も製造された機体でしたが、大西洋において英国海軍によって少数が使われたものの世界中で使用された、というわけではなかったようです。小型の護衛空母で運用するにはF4Fの方が好まれたためでしょう。なお、ライバルのF4U コルセアに比べて発展性に乏しかった本機は、太平洋戦争の終結から5年後の朝鮮戦争にはすでに主力機の座から退いており、対日本戦だけに輝いた機体ということもできます。

### 【模型について】

イタリアのイタレリ(Italeri)製 1/72 のキットです。F6Fのキットは数々あれど、個人的にイタレリのプロポーションやモールドが好きでこれを制作しました。欠点は、フラップがアップ状態だと段差ができてしまうことで、ダウン状態を選択せざるを得ないことでしょうか。ディテールアップのため、R-2800エンジンをレジンのアフターパーツに換装してあります。

(中川裕幸 2021年9月、改定2024年8月)